

2024年3月28日

専門学校名古屋デンタル衛生士学院
校長 飯野 新太郎

学校関係者評価委員会

2023年度学校関係者評価委員会報告

自己評価報告書を基に実施しました学校評価を下記の通り報告します。

記

1、学校関係者評価委員

- ①長谷川 勲（有識者委員：学校制度識者）
- ②飯野 弘和（専門分野委員：関連企業）

2、学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

2023年度学校関係委員会報告書

①教育理念

評価項目
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
学校における職業教育その他の教育指導の特色は何か
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・関係業界・保護者等に周知がなされているか
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】 教育方針に掲げる人間性豊かな学生を育成するために、芸術鑑賞や体験学習、フラワーアレンジメントなど教養講座（女性学としているが名称変更を検討）として実施している。 入学時のオリエンテーションで教育方針、教育理念を説明している 超高齢化社会に向けた口腔機能低下症の評価や口腔機能訓練法など歯科保健指導の中や高齢者施設実習の中で実施している</p> <p>【今後の課題と取組】 社会、歯科医療のニーズに対応できるよう講義、実習内容の充実さらに科目についても検討を重ねていく必要がある （審美歯科、インプラント等の実習や最新式機器（歯内療法用のニッケルチタンロータリーファイル等）盛り込み充実させる） 時代の変化や医療の高度化に伴い国家試験の難易度が上がってきたことにより、カリキュラムの精査と1時間の授業時間を見直す予定である</p>
学校評価委員の意見
評価：ほぼ適切である 臨床の現場で必要な最先端の技術を経験させる必要性について検討を行うこと 引き続き、現在の取組と課題の項目を踏まえて鋭意努力を行っていくこと

②学校運営

評価項目
目的等に沿った運営方針が策定されているか
運営方針に沿った事業計画が策定されているか
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
人事、給与に関する規程等は整備されているか
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
情報システム化等による業務の効率化が図られているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>長期的、短期的な行事計画を作成し、例年実施している。</p> <p>移転後 14 年を迎え想定される大規模修繕について、第 2 号基本金の組入を具体的 2023 年度予算より計画していたが、第二回補正予算の審議として計画取消と変更した</p> <p>ICT 教育活動の本格的稼働を目論んで情報ネットワーク整備と情報教育支援システムの施設拡充を行った</p> <p>教育活動に対する情報は自校ホームページにて掲載している</p> <p>情報システム化は既に、学校会計、学校給与、学生募集を実施している</p> <p>【今後の課題と取組】</p> <p>情報ネットワーク整備と情報教育支援システムを強化したことにより、これを活用するための取組を学校内部で図っていくことと、情報化社会に対応した教職員のスキルアップと危機管理にも併せて取組みます</p> <p>学生募集ソフトに付加されている教務関連機能ですが、年間カリキュラムが管理できるように整備を行う</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である</p> <p>ICT 活用のシステムが整備されたことにより、それを活用するため教職員をスキルアップさせるための研修を行う。併せて危機管理についても認識させて活用させる必要があると考える</p>

③教育活動

評価項目
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
授業評価の実施・評価体制はあるか
職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）を確保するなどマネジメントが行われているか
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
職員の能力開発のための研修等が行われているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>専任教員の突発的な退職により各教員への負担が増し、学年によっては休、退学者を増加させてしまった。</p> <p>臨床実習担当指導者に対しても成績評定会、講師会を開催し学生指導の指針、成績評価方法など情報共有をすることで適切な評価の実施に努めている</p> <p>臨床実習施設においては、矯正歯科、小児歯科、審美歯科など専門性の高い施設を増やしたことで医療現場での歯科衛生士の役割や技術、知識の習得ができています</p> <p>臨地実習においても乳幼児から高齢者に係る幅広い施設での実習を実施している</p> <p>また関連分野における業界等との連携において優れた兼務教員を招くことができた</p> <p>1名の専任教員ではあるが、歯科衛生士専任教員講習会を今年度受講し、専任教員Ⅰの認定歯科衛生士の資格を取得した。</p> <p>【今後の課題と取組】</p> <p>歯科衛生士専任教員講習会を今後も受講し、専任教員認定歯科衛生士の資格を取得し、人材育成の目標に向けた授業ができる教員を増やしていく。</p> <p>授業評価のあり方について①学習前の認識や経験、興味関心など（レディネス）を把握する。②授業過程において知識、技能等が習得されつつあるか確認する。③単元が終了時点で目標達成したかどうかを確認する。現段階では評価体制に検討の余地があり、教務間での話し合いをしっかりと行い評価体制を整えて行きたい</p> <p>次年度のカリキュラムについては、時代にあったカリキュラムの作成を行う前段階とし①カリキュラムのスリム化②国家試験の出題基準（出題されやすいポイント）にあった講義の依頼を行わずに肥大化したカリキュラムの改定を行いたい</p> <p>教員の能力開発のための研修ができるような時間の確保も併せて進めて行きたい</p> <p>教員の指導力育成や資質向上・モチベーションアップできる勉強会・研修会にも積極的に参加や開催できるようにしていきたい</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である</p> <p>教員の資質向上のため研修会に参加させることは非常に重要であること、特に専任教員Ⅰについては全員が早期に受講することが望ましい</p>

また、能力開発計画を作成し自ら積極的に参加を意識させ向上心を上げる必要性がある
 なお、中堅教員が新人教員の教育を行うことで更に能力を向上させる。更には教員間でも研修を行うための時間を増やすことも必要である

④学修成果

評価項目
就職率の向上が図られているか
資格取得率の向上が図られているか
退学率の低減が図られているか
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>就職率の向上については7月末に就職を解禁し、夏休みを利用し3施設程度見学へ行かせた。その施設の中で希望する歯科医院へ面接に行かせ、10月頃には多数の内定者がでた。本年度についても多数の学生が歯科医院へ就職いたしました。総合病院や保健センターへ就職が内定した学生もいた</p> <p>国家試験合格を目指し、3年時には国家試験対策として非常勤講師によるまとめの講義、専任教員による補習授業を実施している</p> <p>模擬試験などを実施し全国的なデータを知ることによりモチベーションの向上につながっている</p> <p>成績不良者には専任教員が授業後の補習授業を実施している</p> <p>【今後の課題と取組】</p> <p>国家試験対策については今よりもう少し早い段階からの対策を考え、夏には受験者が苦手としている基礎科目から特に国家試験に出題されやすいポイントをDHS 歯科衛生士部の夏期基礎対策講座で対策をしていきたい。また成績が伸び悩んでいる学生に対しては夏期講習を開催し夏休みより国家試験対策を行って行きたい</p> <p>成績不良者には専任教員が授業後の補習授業を実施しているがなるべく国試対策時に負担がかからないように早めから模擬試験などを実施し全国的なデータを元に課題をこなし合格率向上を図りたい</p> <p>卒業後のキャリア形成への効果を把握し在校生に還元してもらえるようなカリキュラムの構成をしていきたい</p> <p>退学者が出た学年に偏りがあったため、教員の対応方法や学生に対する接し方を学べるように学校教育活動の目的をしっかりと明確化したい</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である</p> <p>難易度が上がる国家試験について、実力試験の難易度設定が重要なことや個々の習熟度に関係があることや、基礎の積み重ねが重要であることの学びの維持向上について検討する必要</p>

がある

⑤学生支援

評価項目
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
学生の健康管理を担う組織体制はあるか
課外活動に対する支援体制は整備されているか
学生の生活環境への支援は行われているか
保護者と適切に連携しているか
卒業生への支援体制はあるか
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>授業料軽減補助金の交付に伴い、各学年の該当学生の状況を確認し申請手続きを行った更に新たな支援補助金の支給区分（4区分：多世帯※3名以上の扶養者世帯）に向けての告知や手続き等に関しても円滑に行っていきます</p> <p>学生の健康面については今年度より入学時に既往歴を学生個票に記入させ、急な体調変化に対応できるようにした</p> <p>また年一回の健康診断を実施しクラス担任を中心とし学生の様子を注意深く観察している</p> <p>成績表の郵送、また不良者に対しては保護者に連絡をとるなど早めに対処している</p> <p>専任教員の不足に対しては、実習補助教員を増員し対応していた</p> <p>学生や保護者との連絡連携をより密に強化することや、教材やレポート提出を電子化する学校教育向けソリューションシステムのアカウントは取得済みである</p> <p>学校独自の歯科医院奨学金制度を実施している</p> <p>卒業生への支援体制については、まずは校友会名簿の整理を行った</p>
<p>【今後の課題と取組】</p> <p>経験年数の短い教員についてのサポート体制についての見直しが必要であるとする</p> <p>校友会研修会が実施できていないため名簿をしっかりと整理してから再開させたい</p> <p>校友会活動が休止してしまっていたが、所在や近況の確認や活動再開の基とするために DM 発送を行い、会員名簿の精査や活動内容についての意見交換を行っている</p> <p>また、卒業生の活躍を在校生に伝えていけるような研修会・活動報告会などを再開させたい</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である</p> <p>現在の取組と課題の項目を踏まえて引き続き鋭意努力を行っていくこと</p>

⑥教育環境

評価項目
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか
防災に対する体制は整備されているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】 養成所指定規則上の施設、専修学校設置基準上の施設についての法令遵守を行っている インターンシップ、海外研修制度に関しては実施をしていない 防災整備は学生及び教職員一人一人に防災グッズを配布し指定のロッカーに常備させている ICT教育の活性化のため情報ネットワークシステムとその活用を使用する教育支援システム（機器備品）を導入した</p> <p>【今後の課題と取組】 大規模修繕計画の再策定と併せて、ICT教育の具体的な計画を策定し、学生へタブレットPCの購入活用と教員との連携を加速化させる。 既存の講義、実習を行う液晶プロジェクター、液晶モニターがアナログ対応のままなのでデジタル対応への更新工事が急務である 防災は学校全体としての備蓄品を検討する</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である 現在の取組と建物付帯設備や次年度予定していた、各施設のプロジェクターやモニターの更新導入を行うことを目標に引き続き鋭意努力を行っていくこと</p>

⑦学生の募集と受入れ

評価項目
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか
学生募集活動は、適正に行われているか
学生募集活動において、資格取得・進学又は就職状況等の情報は正確に伝えられているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】 高校訪問や高校内で行われる説明会や会場での説明会は通常通りとなった。情報化が益々活況となつてか、会場説明会の動員実績が減少傾向である 体験入学も感染予防対策を意識しながら、ほぼ予定通り実施いたしましたが人数制限と談話形式による食事の提供も引き続き自粛としました 更に、今年度は18歳人口が一時的に減少傾向にあることから参加人数が減少傾向である毎年開催されている高等学校進路指導協議会との協定や指摘事項を遵守している</p> <p>【今後の課題と取組】</p>

年度を重ねるごとに希望者の学校決定が早期化しており AO 入試についてはエントリーや出願者も良好であったが 10 月から実施の推薦・一般入試希望がかなり鈍化され、AO 入試の更なる啓発や充実が重要である

今後ますます減少傾向にある 18 歳人口ですが、魅力ある実習授業（審美・ホワイトニング等）の模索及びその情報発信を電子媒体に活用発信していきます。更に既卒在籍は毎年一定数の割合を確保していますが、更に有効地域の歯科医院や歯科医師会を通じて希望者紹介のアピールを強化します。なお専任教員の人数を手厚くすることにより学生支援をより強固にし、学生満足度を上げる活動も強化します

学びの電子化と同様に web 出願の導入を検討して参ります

学校評価委員の意見

評価：ほぼ適切である

現在の取組と課題の項目を踏まえて引き続き鋭意努力を行っていくこと

⑧財務

評価項目

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

財務について会計監査が適正に行われているか

財務情報公開の体制整備はできているか

自己評価

【取組状況と成果】

今年度も財務状況は安定している状況です。ICT 教育活動の整備も予算通り愛知県施設設備整備補助金の申請と併せて計画実施となりました。また教育用機器備品の消耗品劣化対応も終了しました。また空調機や貯水槽のポンプ等の修繕も実施いたしました

コロナ感染症 2019 の影響はほぼ無くなり、実習時の予防消耗品の価格も供給も通常期までに戻る傾向にあります

当初予算にて計画した第 2 号基本金組入が計画取消となりました

コンサル契約を締結している公認会計士より財務諸表の確認と指導をいただいている

【今後の課題と取組】

大規模修繕や大型設備の更新に備え更なる収支計画の充実を図るべく計上した第 2 号基本金組入計画ですが計画を取り消すこととなり早期に再計画を実現する

予算執行に関してはできるだけ最小で最良のものを吟味し無駄なく決裁する

情報公開に関してはホームページにコンテンツを作成し、学内に閲覧書類も整備している

学校評価委員の意見

評価：ほぼ適切である

現在の取組と課題の項目を踏まえて引き続き鋭意努力する

⑨法令等の遵守

評価項目
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
自己評価結果を公開しているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>個人情報に関しては取得に対する注意と漏洩に対する対策を実施、インターネット環境の接続強化を実施し万が一に備え財団の損害保険加入済み</p> <p>店舗総合損害保険が満期となり什器再評価を更新した複数年（5年）契約を実施した法令解釈の相違を防ぐことと、様々な突発的事態に対策するため弁護士とのコンサル契約を行った</p> <p>自己評価報告書、学校関係者評価委員会報告書に関しては今年度当初から実施し情報公開を行っている</p> <p>【今後の課題と取組】</p> <p>自己評価とそれに伴う学校関係者評価委員会を実施する中で、問題点の改善は基より実施の時期や構成員等も細かく検討し、組織の充実を図ります</p> <p>ICT教育の活性化に伴いサイバー保険の加入を検討する</p>
学校評価委員の意見
<p>評価：ほぼ適切である</p> <p>自己評価報告書と学校関係委員会報告書の情報公開については継続して実施すること職業実践専門課程の申請を意識して外部評価の検討も行うこと</p>

⑩社会貢献・地域貢献

評価項目
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか
自己評価
<p>【取組状況と成果】</p> <p>名古屋市立扇台中学校の依頼により中学校2年生4名の学生を令和6年1月18日（木）に学校訪問を実施し職業紹介を実施した</p> <p>天白区歯科医師会主催・天白保健センター共催の「歯と口の一日健康センター」に一部の学生がイベントに参加させていただき、就学前の乳幼児とその家族に口腔衛生に関する普及啓発活動の実施に携わらせていただいた</p> <p>資源や施設を活用した社会貢献は天白区歯科医師会の会合や研修会場として施設の提供を行っている</p>

【今後の課題と取組】

生徒のボランティア活動に関しても、コロナ禍の状況に考慮した内容で継続して啓発を試みます

学校評価委員の意見

評価：ほぼ適切である

現在の取組と課題の項目を踏まえて引き続き鋭意努力を行っていくこと